

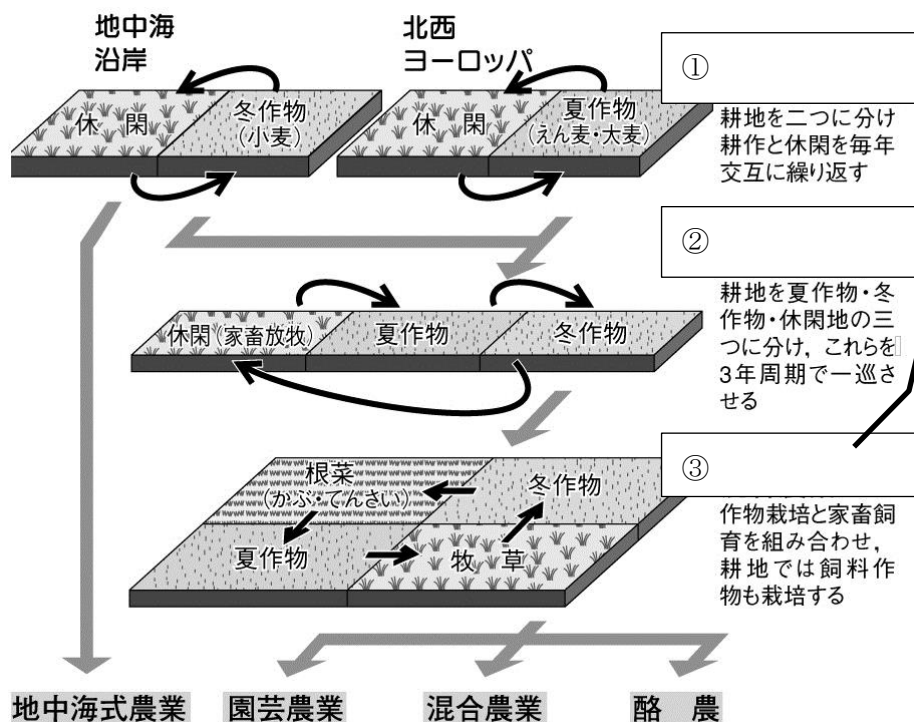
地誌 第22回「ヨーロッパ地誌③～ヨーロッパの農業～」

○今回のポイント

EU 諸国の農業と共通農業政策 (教科書 p.192～)

ヨーロッパの自然と多様な農業

1. ヨーロッパ農業の発達



☆[④]☆
 四輪作法の普及で[⑤]が消滅
 ↓
 穀物増産[⑥]
 ↓
 大地主が土地を集約し、小規模自作農が土地を失う
 ↓
 土地を喪失した農民が職を求めて都市に移住し[⑦]に。
 ↓
 産業革命の3つの要因
 A.資本蓄積
 B.[⑧]
 C.世界市場

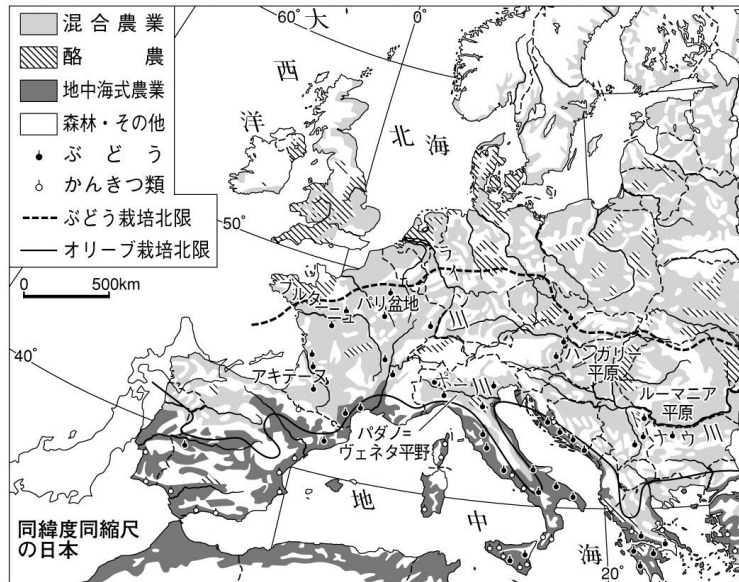
○自給的農業から[⑨]へ

- ・産業革命以降は、工業化の進展により、農村部から工業が発達している都市部へのさらなる[⑩]が起こり、都市化が進展する。
- ・増加した都市人口に食料を供給するために、農業も自給的農業から商業的農業へと変化。混合農業、酪農、園芸農業に分化。

○各農業の特徴

⑪	作物栽培と家畜飼育を組み合わせた農業で、小麦やライ麦などの穀物とトウモロコシやジャガイモなどの飼料作物を輪作し、肉牛や家畜飼育と組み合わせたもの。
⑫	牧草や飼料作物を栽培して乳牛を飼育して、牛乳や乳製品を市場に出荷する農業。
⑬	大都市向けの野菜や花卉(かき)などを集約的に栽培する農業。市場への輸送に便利な大都市近郊で発達。近年は交通機関の発達により大都市から離れた遠隔地でも行われるようになる。
⑭	夏の高温乾燥に耐えられるオリーブ、ブドウなどの樹木作物を栽培し、湿潤な冬には小麦栽培を行う。

○ヨーロッパの農業地域



○ヨーロッパにおける農業生産

a. [15]

- ・大陸氷河の影響を受けたやせ地が広がり、酪農が発達。

b. [16]

- ・ドイツ北部、ポーランド…ライ麦やジャガイモの栽培と豚の飼育の混合農業
- ・フランス、イタリア北部…小麦やトウモロコシの栽培と肉牛の飼育の混合農業

c. [17]

- ・市場に近い大都市近郊で、都市向けの野菜や花卉を栽培する。
- ・オランダ…高度な技術と資本を投下して、土地生産性の極めて高い園芸農業を行う
- ・スペイン、イタリア…温暖な気候を利用して促成栽培。野菜の栽培が盛ん。

d. [18]

- ・夏に少雨となるので、オリーブ、ブドウ、柑橘類などの樹木作物を栽培している。

EU の [19] …EU の予算の大半が共通農業政策に当てられ財政を圧迫している

